

APRUマルチハザードサマースクールを開催しました (2018/7/24-27)

テーマ：APRU, 国際連携、
場 所：災害研多目的ホール

2018年7月24-27日に、第6回APRUマルチハザードサマースクールが当研究所にて開催されました。今回は、通常のAPRU加盟大学からの43名(10カ国26大学)の参加者に加え、24-25日には、北東アジア経済フォーラム(NEAEF)のヤングリーダーズプログラムから32名(7カ国28大学)と併せて75名が参加しました。

開会式では、今村文彦所長(災害リスク研究部門)とChristina Schonleber氏(APRU事務局政策・プログラム担当ディレクター)が開会の挨拶を述べられました。午後には、大野英男 東北大学総長からも歓迎のご挨拶をいただきました。

映画「大津波」上映の前には、中鉢奈津子特任助教(広報室)が映画について解説をした後、映画が上映され、その後、伊藤潔副所長(災害医学研究部門)よりIRIDeSの活動概要について、講演がありました。

24日のその他の発表(発表順)は以下のとおりです。

- 泉貴子准教授(地域・都市再生研究部門)「International Strategy for Disaster Risk Reduction: the implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction」
- 平野勝也准教授(情報管理・社会連携部門)「The problem of embankment」
- 村尾修教授(地域・都市再生研究部門)「Urban Disaster Reduction: Japan as a disaster-prone country and learning from past disasters」
- ボレー・セバスチャン助教(情報管理・社会連携部門)「Approaches of social sciences to disaster mitigation」
- 江川新一教授(災害医学研究部門)「Medical and public health needs in disaster」

25日の巡検では、2グループに別れ、APRUグループは旧大川小学校、女川町、震災遺構旧荒浜小学校を視察し、NEAEFグループは震災遺構旧荒浜小学校、石巻復興資料館などを視察しました。

26日は多賀城市、高屋小学校(巨理町)、国際NGOなど学外から発表者を招き、自治体による復興の取り組み、防災教育、防災イノベーションについて講演いただきました。午後には、4つのグループに別れ、それぞれの研究について意見および情報交換を行いました。

27日には、カリフォルニア大学デービス校、山梨大学、国連大学、ハワイ大学マノア校の教員による講演が行われました。その後のグループワークでは、それぞれのグループ内メンバーの研究をもとに、コミュニティのための防災プロジェクトを作成する作業を行い、グループ発表で成果を発表しました。参加者からは、「サマースクールの期間を延長してほしい」「防災は様々な分野の融合であることが理解できた。自身は理系だが、今後は防災を総合的に学びたい」などの意見が寄せられました。

文責：泉貴子 (地域・都市再生研究部門)
(次頁へつづく)



大野総長の挨拶



今村所長の挨拶



伊藤副所長



中鉢助教



平野准教授



村尾教授



ボレー助教



泉准教授



江川教授



全体写真



グループワークの様子



グループワークの様子



旧大川小学校



震災遺構旧荒浜小学校